



真生会富山病院

地域連携だより

第7号

2014年7月発行

〒939-0243

富山県射水市下若 89-10

TEL 0766-52-2156

FAX 0766-52-2197

<http://www.shinsekai.jp/>



地域密着型急性期病院をめざして



副院長（歯科医師）

い나다まさかず
稲田 雅一

国の医療政策をみますと、2012年に閣議決定された社会保障・税一体改革において示された2025年の医療提供体制は、2年ごとの診療報酬改定と、5年ごとに実施される医療計画の見直しとリンクされ、進められてゆきます。その2025年の完結を視野においた場合、2018年の医療・介護同時改定、加えて第7期医療計画のスタート、その前段階で2014年に導入開始される「病床機能報告制度」。まさに加速度的に変革が進行しています。そして今後、自治体の役割変化、権限も強化されるでしょう。まさに地域に見合った受け入れ体制の整備が進んでゆきます。

一方、足元をみますと65才の高齢者は3千万人。2025年には団塊の世代がすべて75才以上を迎えます。後期高齢者（75才以上）は30年後に11%から21%になり、将来の老々介護、はては認知介護といわれる様相を呈してきます。2015年には、介護施設、居住者施設の不足も懸念されます。

そんな環境の中、「地域との信頼関係を築き、なくてはならない地域密着型急性期病院」を真生会は目指してゆきたく思います。現駐車場に住宅型有料老人ホームの建設工事を行い、年内には竣工予定です。そして地域の医療機関の皆様、介護施設の皆様とともに更なる連携を重ね、多くの地域の皆様のお役に立ちたいと願っております。これからも何卒よろしくお願い申し上げます。

第3回地域連携交流会を開催して

地域医療連携室室長代行 医療ソーシャルワーカー 阿部 素子

射水市内の介護支援専門員（ケアマネジャー）と当院の他職種の親睦を図る目的で始められた地域連携交流会は、麦秋の候、6月3日（火）に第3回の開催を無事に終えることができました。40名のケアマネジャーと、当院からは医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、言語聴覚士、管理栄養士、加えて薬剤師が初参加し、計76名の参加者でした。

前半は心療内科部長、明橋大二医師より、「高齢者のうつ病」についての医学講座があり、認知症とうつ病の見分け方のポイントについて詳しく聞きました。また、初めて耳にした「人薬」（ひとぐすり）という言葉に、うつ病の治療において「人間関係」は大切であり、周囲の人の「関わり」が与える力は図らずも大きいのだと実感しました。

講演の終わりには明橋医師の朗読で、大阪弁の少女が主人公の『ええところ』という絵本の上映。自分の「ええところ」はどこだと悩む少女の話に、ほろりとする参加者もいました。自己肯定感を育んでいくことは、「人薬」にも通じる場所があり、子どもだけでなく、高齢者との関わりにおいて、支援する人、支援される人、すべての「ひと」につながる大切なことではないでしょうか。

講演後には、事前にケアマネジャーから寄せられたうつ病の利用者に関する質問に対し、助言をもらいました。

後半は、各7～8名のグループに分かれてグループワーク。最初に、普段は会う機会の少ない医師と看護部の幹部の顔を覚えてもらおうと、ケアマネジャー全体に紹介しました。続いて、苺のケーキを頬張りながらグループ内で自己紹介。「退院支援について」、「普段、病院との連携で困っていること」の2点について話し合いました。活発な意見が交わされ、双方の交流を深めることができました。グループワークに初めて参加した病棟看護師と管理栄養士の感想を紹介します。

～ 4階さくら病棟看護師 熊本 久美子 ～

初めて交流会に参加しました。今までは、病棟で顔を合わせて話をすることはありませんでしたが、具体的にどんな仕事をされているのかわかりませんでした。患者さんの自宅に訪問していることや、お1人につき、30～40人も担当されていて多忙であると知ることができました。入院患者さんの中で、高齢者2人



暮らしの世帯では、別居している家族に普段の様子を聞いても知らないことがよくあります。そのようなときにケアマネジャーさんから電話や文書で情報提供をしてもらえると有難く思います。

～ 管理栄養士 結川 美帆 ～

今回が初めての参加でしたので、管理栄養士の立場で何を話せばいいのか、戸惑いがありました。ケアマネジャーの皆様方とお話し、管理栄養士の在宅訪問の需要があると分かったことが、とても大きな収穫でした。グループワークでは、「昨年の交流会で挙げた改善点をすぐに対処してもらえたことで、真生会に対する信頼が深まった」という意見がありました。今回のような交流会ですと、普段からの疑問を聞きやすい雰囲気があり、定期的な開催には大変意味があると感じました。また、ケアマネジャーの方々が感じられる疑問点は、ある程度共通したものが多いように思います。病院によって対応が全く異なるという点も、苦勞されているようですが、各病院の対応を標準化することは不可能ですので、せめて真生会の中だけでも、誰にいつ聞いても、同じ対応ができるような体制になれば、より良好な関係を築け、地域に必要とされる病院になっていくのではないかと思います。

◆◆◆地域の介護支援専門員の皆様へ◆◆◆

7月より主治医に対し、原則、居宅サービス計画書の交付が実施されることとなり、地域連携交流会で居宅サービス計画書の送付先について質問を頂きました。

当院への送付は、各担当医師宛に郵送をお願いいたします。直接持参される場合は地域医療連携室にお越しください（9:00～17:00）。不在の際は、総合受付でお預かりいたします。

*ご不明の点がございましたら、地域医療部直通電話 0766-52-1556 までお問い合わせください。

健康セミナー、秋に開催決定

今年も下記の日程で健康セミナーを開催いたします。

日時 : 9月27日(土) 14:00～16:00
会場 : アイザック小杉文化ホール ラポール
～まどかホール～
講師 : 花川 博義 (皮膚科医師)
テーマ: 笑顔になれる お肌の健康
part I アトピー性皮膚炎 part II 美肌
多数のご参加をお待ちしております。



視能訓練科の紹介

視能訓練科 主任 楯 日出雄

◇視能訓練士の業務◇

眼疾患の予防には、早期発見、早期治療が大切です。生活習慣病が眼科検診で見つかるケースもしばしばあります。また、3歳半健診で早期に斜視や弱視が見つかるケースもあります。そのような検診業務にも視能訓練士が参加しています。その他、視力低下者のリハビリ指導（ロービジョンケア）も視能訓練士が行う仕事の1つです。高齢化社会、糖尿病など生活習慣病に伴う網膜症、緑内障や加齢黄斑変性症、網膜色素変性症などといった重篤な眼疾患により視機能が十分に回復しない患者さんが増加傾向にあります。そのような方にロービジョンケアを早期に開始し、必要な補助具（拡大鏡、拡大読書器、単眼鏡、遮光眼鏡など）を選定し、使い方を指導します。このように視能訓練士は目の健康に関して様々なサポートを行っています。

◇検査体制◇

現在、視能訓練科には14名の視能訓練士が在籍し、屈折、視野、眼底、斜視/弱視、LASIK(レーシック)、ロービジョンの6つの専門チームで検査を担当しています。専門チーム制を取り入れている意図は、スタッフ一人ひとりが興味、関心のある分野を伸ばし、個々の可能性を広げ、その専門分野のスペシャリストになるためです。

外来から手術、入院までをトータルでサポートするアイセンターの一員として、医師や看護師と連携して業務するほか、院内勉強会、症例カンファレンス、全国規模の臨床研究発表、積極的な学会参加など知識向上のため、日々、自己研鑽に励んでいます。また、知識、技術面と合わせて接遇面にも力を入れています。

◇求められる資質◇

視能訓練士は医療職の中でも、目というとてもデリケートな器官を専門に扱う職業です。大きな不安を抱えて来院される方も多くあります。正確な検査を行うためには、不安を取り除き、安心感を与えられるような対応と人間性、コミュニケーション能力が不可欠だと思います。冷静な判断力と臨機応変な対応、そして人への思いやりという、「高い専門性」と「豊かな人間性」が求められる職業だと日々感じています。経験の浅い若いスタッフが多く、社会人としても視能訓練士としてもまだまだ未熟な点はありますが、プロフェッショナルとして社会の中で求められる人材となるよう、今後も切磋琢磨して安心、満足の医療を提供できる視能訓練士を目指します。

